

1日

《県内求人倍率1.40倍》

福島労働局が発表した6月の雇用失業情勢によると、有効求人倍率は1.40倍（季節調整値）で、前月と同水準で推移した。同局は「一部に厳しい状況があるが、引き続き求人が求職を上回って推移しており、緩やかに改善している」との判断を維持した。

3日

《震災後初、双葉町にコンビニ開店》

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後、双葉町で初となるコンビニ「ファミリーマート双葉町産業交流センター/S店」が開店した。住民の生活利便性の向上、帰還と移住の促進が期待され、地域住民からは喜びの声が上がった。

《EU、日本産食品の輸入規制撤廃》

欧州連合（EU）は、福島第一原発事故後から続けていた県産品を含む日本産食品の輸入規制を撤廃した。欧州自由貿易連合（EFTA）に加盟するアイスランド、ノルウェーも足並みをそろえて撤廃した。欧州から早速、商品購入の打診を受けた県内企業もあり、関係者は輸出拡大に期待を寄せた。

4日

《石英ガラス加工工場、白河市に新設》

半導体製造装置に使用する石英ガラスの研削などを手がける横浜石英（横浜市）が、白河市に新たな工場を建設すると発表した。2026年1月の稼働を予定している。工場稼働時に10人、5年後にさらに30人の新規雇用を計画している。同社の県内工場は塙町にある福島工場に続き2カ所目となる。

7日

《県産花卉の試験輸送スタート》

県花き振興協議会は、浜通りで生産された花卉を効率よく集荷して、輸送にかかる時間や経費を削減する輸送試験を始めた。人手不足などで物流が停滞する恐れがある「2024年問題」を見据え、生産者や生花店の負担軽減を図る目的

で、浜通りをモデルに全県への拡大を目指す。

9日

《土湯温泉観光協会と福島大学、「温泉納豆」開発》

福島市の土湯温泉観光協会と福島大学食農学類は、温泉熱で発酵させる「おららの温泉納豆」の開発に向けた連携協定を結んだ。同協会は、発酵食品をテーマとした新たな温泉街PR事業に取り組んでおり、同大学の科学的知見を活用し、連携事業の一環として11月にオリジナル納豆を発売する。

《“ご当地リカちゃん” 本県魅力をPR》

県は、着せ替え人形「リカちゃん」と連携した魅力発信事業を開始すると発表した。県内の工芸品を生かした本県オリジナルのリカちゃんを制作し、10日から宇都宮市をはじめ、東京都、大阪府の百貨店で展示する。

24日

《処理水放出開始》

東京電力福島第一原発にたまる処理水の処分を巡り、政府と東京電力は午後1時3分、海への放出を開始した。初回分は約7,800 tで、17日間かけて放出する。東京電力の計画では本年度、計4回に分けて約31,200 tを海に放出する。

30日

《県内ガソリン、最高値更新》

経済産業省が発表した28日時点の県内レギュラーガソリン1ℓ当たりの平均小売価格は、前週調査から5円30銭高い185円70銭だった。比較可能となって以降、最高だった2008年8月4日の185円30銭を超えて最高値となった。

31日

《2022年県内観光客4,768万7千人》

県は、2022年県内観光客入り込み数が4,768万7千人で、前年比1,223万3千人（34.5%）増えたと発表した。コロナ禍で2020年以降落ち込んでいたが、県は行動制限の緩和を受けて多くの行事や祭事、イベントが再開したため、人流が活発となり回復したとみている。